

竜串自然再生協議会（仮称）の設立について

四国西南端の高知県土佐清水市に位置する竜串湾は、黒潮暖流の影響を受け、高緯度にもかかわらず、イシサンゴ類をはじめとした造礁サンゴが高被度に分布し、温帯性や熱帯性の多様な海中生物が生息していることから、1970（昭和45）年に、わが国最初の海中公園地区のひとつとして指定されました。

竜串海中公園地区は1～4号地からなり、中でも、4号地（見残し）のシコロサンゴ群集は、その規模の大きさから学術的な価値も高く、高知県の天然記念物に指定されています。また周辺エリアは、グラスボートやスキューバダイビング、スノーケリングなど、海洋レジャーの拠点として整備され、毎年多くの観光客が訪れています。

しかし、近年、海域での濁りの発生や水質の悪化などが原因とみられるサンゴ群集の衰退が徐々に報告されるようになり、さらに、2001（平成13）年9月には、高知県西南地域で局地的な集中豪雨が発生し（高知県西南豪雨災害）、上流域から大量の土砂などが竜串湾に流れ込み、サンゴ群集や海中生物などに大きな被害を与えました。

このため、2004（平成16）年より、地域の代表の方々、関係団体、専門家、関係行政機関などからなる「竜串自然再生推進調整会議」を設置し、サンゴ群集衰退の原因究明や陸域および海域における再生に向けた取り組みなどについて検討を重ねてきました。

その結果、竜串湾のサンゴを再生するためには、西南豪雨災害で湾内に流入し、海底に堆積したままとなっている泥土を取り除くだけでなく、濁りのもととなる森林や河川などからの土砂の流出、周辺地域からの生活排水など、竜串湾の流域からの様々な環境負荷を抑制する必要があることが明らかとなりました。

このように、竜串湾のサンゴ群集を再生するためには、地域の方々や関係団体、関係行政機関などの多様な主体が連携し、共通認識のもと、長期的な再生活動を展開していく必要があります。このため、環境省中国四国地方環境事務所、高知県、土佐清水市、竜串観光振興会では、自然再生推進法に基づく「竜串自然再生協議会（仮称）」を設立し、その連携と協働を推進することとなりました。

竜串湾のサンゴ群集は多様な海中生物の生活の基盤となるものです。この豊かな沿岸生態系を将来にわたり受け継いでいくため、森～川～里～海が一体となり、竜串湾のサンゴの再生を進めていきたいと考えています。

平成18年7月

環境省中国四国地方環境事務所
高知県
土佐清水市
竜串観光振興会